

JP7275098

Publication date: 1995-10-24

Inventor(s): OMOTE MASAHIKO

IPC Classification: A47G9/00; A61G7/05

PURPOSE:To enable a pillow to be used both in lying on one's face and on one's back by composing the pillow of a skeleton portion having a hole for ventilation and a cushion portion having a recess for supporting one's head and a hole for putting one's nose therein.

CONSTITUTION:A construction of a cushion portion 1 comprises a soft material like cotton, cloth, sponge and urethane foam and a material for covering the soft material with a texture like leather, vinyl or rennion. The construction is of a reverse U-shape having a recess in the central part. One in lying one's face rests one's blow on a portion corresponding to the apex of the letter U and buries one's both cheeks in portions corresponding to the vertical rods of the letter U for use. Also in lying on one's back one rests the upper part of one's rear head on the portion corresponding to the apex of the letter U for use. A skeleton portion 2 supports the cushion portion 1 and one's head and the blank is made of a hard material like a plate, a metal and a plastic. However, the front and back surfaces of the skeleton portion are provided with holes respectively through which air blows for ventilation

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開平7-275098

(43) 公開日 平成7年(1995)10月24日

(51) Int.Cl. ⁶	識別記号	庁内整理番号	F I	技術表示箇所
A 4 7 G 9/00	A			
A 6 1 G 7/05				
			A 6 1 G 7/04	

審査請求 未請求 請求項の数 2 書面 (全 5 頁)

(21) 出願番号 特願平6-101665

(22) 出願日 平成6年(1994)4月4日

(71) 出願人 594080596

表 正彦

北海道旭川市神楽5条3丁目1番1号

(72) 発明者 表 正彦

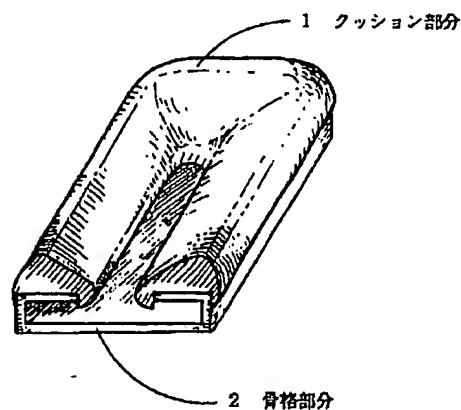
北海道旭川市神楽5条3丁目1番1号

(54) 【発明の名称】 うつぶせ寝・あおむけ寝両用枕

(57) 【要約】 (修正有)

【目的】 うつぶせ寝にもあおむけ寝にも使用できる枕の提供。

【構成】 通気性のある骨格部分2と、鼻を入れるための隙間を有したクッション部分1と、二個の枕を連結するものから成る。



【特許請求の範囲】

【請求項1】 次のような構造の、うつぶせ寝・あおむけ寝両用枕。

(イ) 骨格部分とクッション部分とから成る。

(ロ) 骨格部分に、空気の出入りが可能な穴または隙間を有する。

(ハ) 額を当てる部分の手前に鼻を挿入するための穴もしくは隙間を有する。

(ニ) 後頭部または額・頬部を支えるための凹みを有する。

【請求項2】 二個の枕を紐もしくはマジックテープもしくはフックもしくはスナップもしくは棒などを用いて連結した、うつぶせ寝・あおむけ寝両用枕。

【発明の詳細な説明】

【産業上の利用分野】 この発明は、うつぶせに寝たときにもあおむけに寝たときにも使用できる枕に関するものである。

【従来の技術】 従来の枕はあおむけや横向きで寝る場合には適するが、うつぶせで寝る場合には適さないものだった。そこで、病院や治療院においてはうつぶせ寝の際、バスマット（胸の下に敷くもので、一定の勾配がある）もしくは有孔ベッド台（寝台の頭部の中央に穴を開けたもの）を用いてきた。しかし、バスマットには胸を圧迫して呼吸を苦しくさせるという欠点や、体をそり返らせて腰に負担をかけるという欠点があった。また、あおむけ寝には適さないという欠点があった。いっぽう、有孔ベッド台には、わざわざ穴を開けるため製作費が高くなるという欠点があった。また、あおむけ寝には適さないという欠点があった。

【発明が解決しようとする課題】 本発明は上記の欠点を除くために発明されたものである。

【課題を解決するための手段】 本発明は通気のための穴または隙間を有した骨格部分と、頭部を支えるための凹みと鼻を入れるための穴を有したクッション部分とから成る。もしくは、二個の枕とそれを連結するためのものとから成る。両者の使用法は一緒で、頭部の中心線と平行に枕を置き、凹みの部分に頭部を入れる。うつぶせ寝の場合には鼻柱を圧迫しない状態で額・頬部を入れ、あおむけ寝の場合には両肩を乗せない状態で後頭部を入れる。

【作用】 このようにすると胸部をあまり圧迫しないし、腰部に過度の負担をかけずにすむ。本発明は単純な構造のため、安い費用で製作できるが、うつぶせ寝とあおむけ寝の両方に用いることができる。

【実施例】 以下、本発明の実施例を四つ、図に基づいて説明する。

【実施例1】

【図1】において1……はクッション部分である。その構造は綿、布、スポンジ、ウレタンフォームなどの軟らかい物を皮またはビニールまたはレニオンなどの生地

覆った物である。その形状は中央部が凹んだ、逆Uの字型をしており、うつぶせ寝の際にはUの字の頂点にあたる部分に額を乗せ、Uの字の縦棒にあたる部分に両頬をうずめて用いる。また、あおむけ寝の際にはUの字の頂点にあたる部分に後頭部の上部を乗せて用いる。2……は骨格部分で、クッション部分1……と人の頭部を支えるためのものである。その素材は板、金属、プラスチックといった硬い物である。しかし、正面と背面には穴が開けられており、吹き抜けになっている。これは換気のために設けられたものである。

【図2】は骨格部分2……の構造を明らかにするため、

【図1】からクッション部分1……を取り除いたところを示したものである。なお、クッション部分1……と骨格部分2……とは接着剤で接着してある。しかし、これを用いずに前者で後者の側面と底面を覆ってしまう方法もある。この場合はいささかコスト高になるが、枕全体の強度と弾力性を増すことができる。

【実施例2】

【図3】において1……はクッション部分であり、2……は骨格部分である。前者と後者を一つにするためには接着剤または紐または針金またはフックなどを用いる。前者で後者を包むという方法もある。前者の構造は【実施例1】のクッション部分と同様である。後者の構造は竹、藤などを編んで、もしくはビニール紐、針金、ワイヤロープ、金属棒などを交差させて作成したものである。この枕の使用法は【実施例1】と同様である。なお、クッションの代わりに網または布を骨格部分の凹みにかけ、枕として利用する方法もある。この場合、クッションを使ったときより弾力性が乏しくなるが、製作費は安くなる。

【図4】は骨格部分2……の構造を明らかにするため、

【図3】からクッション部分1……を取り除いたところを示したものである。

【実施例3】

【図5】において3……は枕である。その素材は【実施例1】のクッション部分と同様で、その形状は底面を台形とする角柱である。4……は布で、表側の一端にマジックテープのメス5……を縫いつけてあり、裏側の一端にマジックテープのオス6……を縫いつけてある。利用者の小鼻の幅に応じて枕の間隔を変え、それに依りてマジックテープの付着部分を変えることができる。このようにしたものに頭部を置くと、その重みで二個の枕が左右に広がろうとする。このとき布はビーンと張った状態となり、頭部がよく支持・固定される。

【図6】は上記の構造の枕に人がうつぶせになったところを示したものの。なお、枕の間隔を調節しながら連結するためにマジックテープを使用しているが、これの代わりに紐、フック、スナップなどを用いる方法もある。

【実施例4】

【図7】は二個の枕3……を棒（下からはめるもの）で

3

固定するものである。枠は板、金属、プラスチックといった硬い物で作る。これには幅の広い、大人用の枠7・・・と幅の狭い、子供用の枠8・・・の二種類がある。このような枠と枕の上に頭部を置いて上記の目的を達成できる。なお、【実施例3】【実施例4】のように、枕を二個連結する方式の場合は、利用者の骨格と好みに応じて枕の形状を変えることができる。四角柱の代わりにそれ以外の角柱（三角柱、五角柱、六角柱など）もしくは円柱を用いてもよい。また、底面が楕円形の柱状のもの、底面が扇形の柱状のもの、底面がハート型の柱状のもの、底面が半球形の柱状のもの（カプセル型）などを用いてもよい。

【発明の効果】本発明の構造はきわめて簡単ではあるが、効果は絶大なものがある。まず、あおむけで寝た場合には次のような効果がある。

(イ) 後頭部がよく固定されるため、心が休まる。首に運動器系の病気（頸椎損傷、頸椎椎間板ヘルニア、頸部捻挫など）があって安静が必要な患者には特に効果的。

(ロ) 後頭部の通気性が良く、むれたりかぶれたりしにくい。

(ハ) 後頭部を負傷した際やここに腫れ物ができた際にも傷口を刺激することなく休養できる。

(ニ) かぜなどをひいて熱があるときは蓄冷材を凹みの上に置くことができる。従来の枕を使った場合は頭の重みで蓄冷材が左右に逃げることもあるが、この場合、そういうことがない。

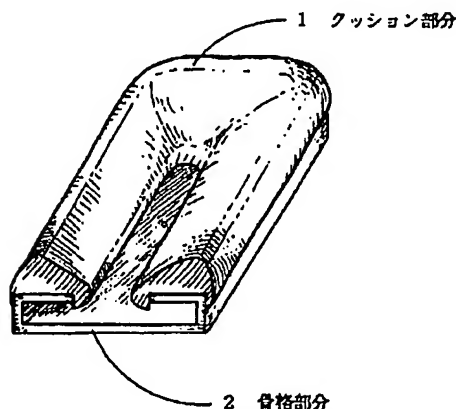
(ホ) 頭髮の接触部分が少ないので、汚れにくい。

(ヘ) 利用者が乳幼児の場合は後頭部の変形（絶壁頭の形成）を防ぐことができる。

さらに、うつぶせで寝た場合には次のような効果がある。

(イ) 呼吸が楽。これは鼻柱がおしつぶされないためであり、鼻のまわりに空気の通り道があるためである。

【図1】



4

また、バスマット使用時のように胸部が圧迫されないためである。

(ロ) 首を左右に向けた状態で寝なくてすむので、首が苦しくない。

(ハ) 体幹がそり返らなくてすむので、腰が苦しくない。

(ニ) 背中や臀部に外傷（とこずれ、火傷など）がある患者は傷口を刺激しない状態で休むことができる。

(ホ) 幼児や老人や泥酔者が睡眠中に食べ物を吐いた場合でも、気道が確保されているため、吐瀉物による窒息死を回避できる。

(ヘ) 顔の化粧（口紅、ファンデーションなど）や脂や汗がベッドに付着しないため、ベッドを汚さずにすむ。

(ト) 治療師（はり師、きゅう師、マッサージ師など）が患者の後頭部、頸部、背部、腰部を治療する場合、施術が容易。

(チ) 凹みの下に隙間ができるため、ここに好みの芳香剤を置くことができる。快適な匂いをすぐそばで嗅ぎながら眠ることが可能。

【図面の簡単な説明】

【図1】本発明の斜視図

【図2】本発明の骨格部分の斜視図

【図3】本発明の他の実施例の斜視図

【図4】上の実施例の骨格部分の斜視図

【図5】本発明の他の実施例の斜視図

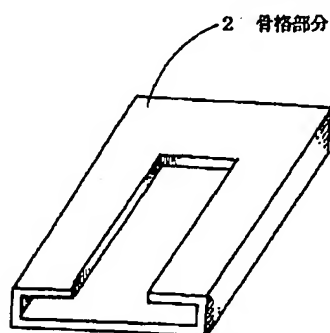
【図6】上の実施例の使用平面図

【図7】本発明の他の実施例の斜視図

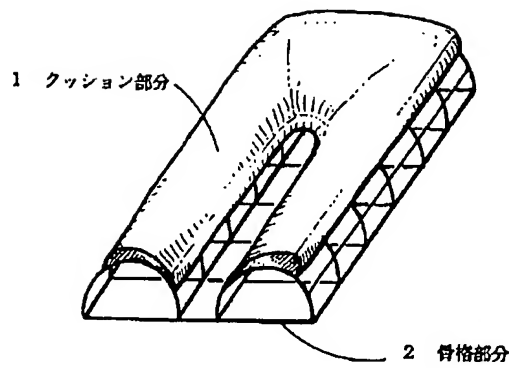
【符号の説明】

- 1・・・クッション部分 2・・・骨格部分 3・・・枕 4・・・布
5・・・マジックテープのメス 6・・・マジックテープのオス
7・・・大人用の枠 8・・・子供用の枠

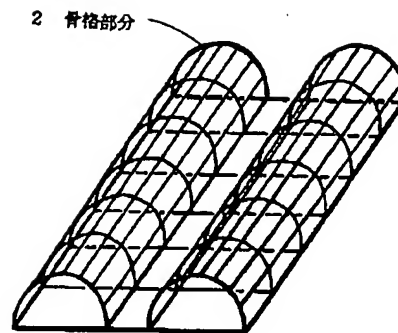
【図2】



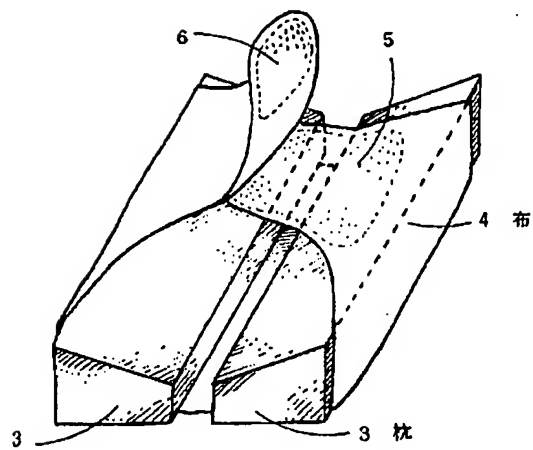
【図3】



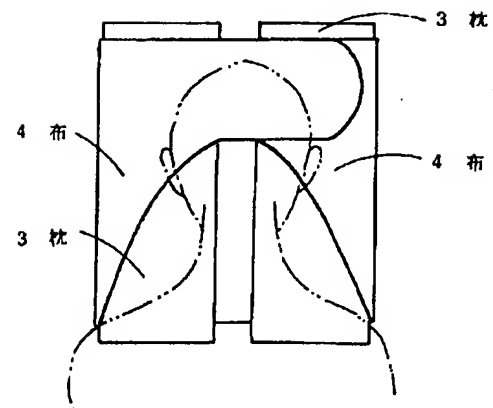
【図4】



【図5】



【図6】



【図7】

